

外国語科目

授業科目名	英語初級 A English 1A			
教員名	近藤 真彫			
開講時期	通年	月曜 4	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

美術に関する比較的平易なテキストを読んで英語の読解力を養成するとともに、それを応用した英語表現を習得することを目的とします。

■授業計画及び内容

美術に関係する内容の論文や評論を読み、履修者の必要に応じて基本文法の復習も行います。また、学んだ語彙などを使って、ライティングやスピーキングによる表現練習もあわせて行います。

■受講に当たっての留意事項

テキスト講読については予習を前提とします。

受講人数の制限があります（30名まで）。人数の調整を行うので、受講希望者は登録期間の初日には必ず出席してください。

■成績評価方法

前期・後期試験の成績、通常の課題と出席で評価します。

■教科書／参考書

教材はプリントを使用し、参考書は適宜指示します。

■備考（オフィスアワー）

授業の前後。

授業科目名	英語初級 C（取手） English 1C			
教員名	武井 美砂			
開講時期	通年	月曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

美術に関する比較的容易な文章を読みます。英語の文章に親しみ、読解力、リスニング力、英作文力を高めることを目指します。

■授業計画及び内容

教材のテキストを少しずつ読み進めます。テキストを深く理解するために、語彙、基本文法、美術の知識などを確認していきます。時間が取れる時は、その日に学んだ表現を用いた英作文を課します。

■受講に当たっての留意事項

テキスト講読については、予習を前提とします。

受講は、学部生のみ、美術学部生のみ。

受講制限があります（25名まで）。登録期間の初日に先着順で受けつけます。

■成績評価方法

出席、平常点、前期・後期試験で評価します。

■教科書／参考書

田中久美子、池上英洋著『英語でめぐる世界の美術館 ― 大英博物館 & ナショナル・ギャラリー』ジャパンタイムズ 2010 年

■備考（オフィスアワー）

月曜日、授業後。

授業科目名	英語中級 A English (intermediate) 2A			
教員名	大滝 結			
開講時期	通年	水曜 1	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

主にリーディングとリスニングを行う。特に、英語特有の慣用的表現の習得とカタカナ英語の矯正に焦点をあてる。

■授業計画及び内容

〈前期〉

初回の授業時に授業計画および内容の説明を行う。リーディングでは、映画のスク립トなどを使い生きた英語の表現の習得を目指す。また、リスニングとスピーキングでは、日本人特有のカタカナ英語を矯正するため、英語の発音に対する日本語の影響の問題点を考察し、さらに自ら実際に発音しそれを正してゆく。

〈後期〉

リーディングでは、映画のスク립トに加えて演劇の脚本なども使用する予定である。また、リスニングでは、話すスピードによる英語の音声変化の規則を習得し、それに則った練習問題を解いてみる予定である。カタカナ英語の矯正も続けて行う。

■受講に当たっての留意事項

初回または 2 回目の授業に必ず出席し教員の指示を受けること。出席しない場合は、履修を認めないことがある。英語と国語の辞書を持参すること（電子辞書可）。

■成績評価方法

出席 30%、授業への参加態度 20%、前期と後期の試験の成績 50% で評価する。

■教科書／参考書

教科書は適宜コピーして配布する予定。

■備考（オフィスアワー）

授業時間の前後

授業科目名	英語中級 B Intermediate English 2B (intensive reading)			
教員名	源中 由記			
開講時期	通年	金曜 4	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

英語文献の読解力習得を目的とした精読。自宅での予習を前提に、英文読解および内容読解を毎日のクラスで行う。教材は履修者の能力水準をみながら調整しつつ、基本的には美術・芸術をあつかった評論文を取りあげる予定。詳細は第 1 回の授業で指示する。

■授業計画及び内容

各授業においては、あらかじめ定められた分担にしたがって訳文を発表する輪読形式により教材を精読していく。（参考までに、昨年度は John Dewey『Art as Experience』からの抜粋をおもな教材としてあつかった。）

規定の出席率をクリアし、なおかつ：

- a) 教材の語学的理論的理解にもとづいた訳文を発表する（回数はクラスの規模その他の事情による）
 - b) その理解と自分の専門研究とをからめた（いわゆる）「レポート」を提出する（参考までに、昨年度は年間 2 回）
- というふたつの作業をつうじて一定の得点を獲得することを単位取得の条件とする。

■受講に当たっての留意事項

第 1 回の授業で詳細を指示するので、履修者はかならず出席すること。第 1 回・第 2 回の授業のいずれにも出席しなかった学生は履修登録しても成績の評価の対象としない。ただし、大学の定める公欠届ないしそれに準ずる理由があれば、公欠届の提出とともに成績評価の対象とする。

■成績評価方法

出席点、平常点、試験の総合評価。（参考までに、昨年度はいわゆる「レポート」を「持ち帰りの試験」とした。）成績評価の計算式を第 1 回の授業その他で告知する。

■教科書／参考書

教材はハンドアウト形式にて配布（の予定）。詳細は第 1 回の授業で指示する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日の 4 限から 5 限とその前後。ただし授業中はのぞく。

授業科目名	英語上級 A English (Higher Grade) 3A			
教員名	磯部 美和			
開講時期	通年	月曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生 ・大学院生			
特記事項	音楽学部では「演習 A」			

■授業テーマ

文章や放送の内容を、正確に把握し、報告する能力の養成

■授業計画及び内容

新聞・雑誌記事や論文等の内容、および講演・放送などの要点を正確に理解し、その内容を報告したり、関連する質問に適切に応答できるようにする。また、それらの内容について自分の考えをまとめて議論する練習を行う。

主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 新聞・雑誌記事や論文、講演等についての報告や要約
2. 1に関連したディスカッション
3. 単語・表現の小テスト（毎回授業開始時に実施）

■受講に当たっての留意事項

- ・初回の授業で、取り扱っていくトピックについて話し合い、発表担当者を決定するので、履修希望者は初回の授業に必ず出席すること。初回授業に出られない場合は、4月11日（金）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。
- ・受講者の発表や議論を中心とする「演習」の授業なので、十分な予習・復習、および授業への積極的な参加が求められる。

■成績評価方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点（遅刻回数を含む出席状況や授業への貢献度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の1/3以上の無断欠席は失格とする。

■教科書／参考書

＜教材＞

受講者と相談のうえ決定する。初回から数回分はプリントを配布する。

＜参考書＞

授業時間内に紹介する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

授業科目名	英語上級 B English (Higher Grade) 3B			
教員名	佐美 真理			
開講時期	通年	火曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生 ・大学院生			
特記事項	音楽学部では「演習 B」			

■授業テーマ

より深いコミュニケーションを目指して

■授業計画及び内容

現代世界において英語は好むと好まざるとに関わらず世界語としての重要性を一層増している。そのような状況の中で、単なる挨拶や情報の交換を超えてより深い コミュニケーションを可能にする英語力を養成する。

大学での主要研究形態である「演習」の仕方を身につけることも目標の一つ。

毎回 担当者を決め、字句の厳密な解釈及び注釈、質疑応答を行う。

＜前期＞

主に読解力を養成する。

1. 文芸作品（詩、演劇、小説、映画等）の鑑賞。
2. 評論、論文の精読。
3. 新聞、雑誌等のマスコミ英語の読解。

＜後期＞

主に聴解力、表現力を養成する。

1. テレビ、ラジオ等のマスコミ英語の聴解。
2. インタビュー、演説、演劇、映画等の聴解。
3. 歌詞（歌曲、ミュージカル、ポピュラー等）の聴解。
4. 課題作文による表現力養成。英語の詩を書く。

基本計画は昨年度と同じであるが教材は異なるので、2年目の受講も可能。

■受講に当たっての留意事項

受講資格は音楽学部では「英語Ⅰ」（楽理科と音環科は「英語Ⅱ」）4単位既習者、美術学部では「英語中級」4単位既習者、または教員が適当と認めた者。「演習」であるから、学生諸君が積極的に課題を探究すること。

■成績評価方法

試験、レポート及び平常点

■教科書／参考書

指定教材及びプリント

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	独語初級 A German 1A			
教員名	満留 伸一郎、川嶋 均			
開講時期	通年	月曜 4・木曜 3	単位	4
履修対象	学部生			
特記事項	月：満留、木：川嶋。2 単位に分割不可。			

■授業テーマ

ドイツ語の初等文法を習得し、芸術表現の基礎となることばの力を養う。

■授業計画及び内容

月曜 4 限（文法／満留担当）と木曜 3 限（演習／川嶋担当）の二本立てです。

月曜（満留）：1 年間をかけて文法教科書を仕上げます。ドイツ語文法は、1 年目に覚えねばならない事柄がたくさんありますが、それを乗り越えて初等文法の全体像をつかめるようになれば、芸術性と論理的な緻密さをあわせもったドイツ語の美しさを実感できるでしょう。

木曜（川嶋）：月曜の文法授業で学んだことを生かしながら、絵本や音楽作品、演劇台本の会話、ラジオ音声など、生きたドイツ語素材を使って、発音の基礎や、ドイツ語特有の構文、やさしい日常的表現に馴れ親しんでもらいます。後期はより高度な読み物の読解や、芸術的テキストを実際に声に出して表現する作業にも挑戦してみましょう。文法のハンドブック（『ドイツ文法総まとめ』）以外の教材は、基本的にプリントを用意します。

■受講に当たっての留意事項

教材欄に指定した二点の教科書・参考書は、両曜日とも随時使用するので、毎回持参のこと。

ことばの勉強は、地道にコツコツ続ければ、世界がぐんと広がること間違いなしです。1 年間を通して最後まで出席し続けられるよう、頑張りましょう。

【辞書について】

1. なるべくカタカナによる発音表記のない辞書を使って欲しい。
2. 「初学者向け」を唱った辞書やポケット辞書は語彙数が少なくあまりオススメできない。中型以上のサイズの、例文豊富な辞書が望ましい。
3. 教室では紙の辞書を使います（電子辞書禁止）。

※ 詳しくは初回授業での各教官の指示を聞いてください。辞書購入はそのあとからでもだいじょうぶ。

■成績評価方法

前・後期の学期末試験を主に、出席状況などを加味した評価を、月・木総合して行う。必ず月・木両方の授業をあわせて履修してください。分割履修不可！

■教科書／参考書

1. 『Übung macht den Meister（練習中心 初級ドイツ文法 コンパクト版）』白水社
2. 『必携ドイツ文法総まとめ』中島悠爾他著 白水社

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	独語初級 B（取手） German 1B			
教員名	濱西 雅子			
開講時期	通年	木曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツ語の基礎の修得

■授業計画及び内容

ドイツ語圏の美術作品を取り扱った教科書に沿って学習するなかで、ドイツ語の基礎的な能力と、美術に関連する基本用語を身につける。

■受講に当たっての留意事項

予習と授業への積極的な参加が望まれる。

■成績評価方法

前期・後期末の試験と平常点の総合評価。

■教科書／参考書

荻野蔵平他著 『ドイツ美術の旅』朝日出版社 2013 年

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	独語中級 A German 2A			
教員名	山村 浩			
開講時期	通年	水曜 4	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

初級文法修了後のドイツ語読解

■授業計画及び内容

初級文法の既習者を対象にドイツ語の散文作品を読む。主たる目標は構文把握能力の養成。文法を振り返りながらワンランク上の読解力をめざす。

■受講に当たっての留意事項

授業への積極的な参加（毎回の予習）がのぞまれる。

■成績評価方法

平常点（予習を含む）を基本点とし、学期末に小テストを行う。

■教科書／参考書

コピーを配布の予定。

■備考（オフィスアワー）

授業前後

授業科目名	独語上級 A German 3A			
教員名	満留 伸一郎			
開講時期	通年	月曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項	音楽学部では独語（演習）B			

■授業テーマ

文法事項を反芻しつつドイツ語を丁寧に読み、そして味わう。

■授業計画及び内容

チェコのドイツ語作家フランツ・カフカと、彼が終生離れることなかった街プラハの関係を描いたテキストを読む。50 ページ少々あるが、平易な文章なので、できれば1年で読み終えたいところ。日本語として自然な訳文を作る力を身につけることも、目標のひとつである。

受講人数によるが、ひとり4回程度は担当がまわるようにしたい。

■受講に当たっての留意事項

ポケット辞書は授業内容に不十分なので不可。文章を読む際は、例文の多い辞書が不可欠です。

■成績評価方法

試験は行わず平常点で評価する。出席3割、担当箇所訳出その他7割。

■教科書／参考書

Egmont Helmelt 著、有賀健編『フランツ・カフカ ― ユダヤ人のプラハ―』朝日出版社

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	独語上級 C (西洋美術史演習) German 3C(Special Seminar in western art history)			
教員名	薩摩 雅登			
開講時期	前期	金曜 5	単位	1
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	芸術学科・西洋美術史演習と併習（振替措置）			

■授業テーマ

テキスト講読

■授業計画及び内容

我が国における西洋美術史の大半は西洋絵画史で、とりわけ建築に関する授業に乏しい傾向にある。この授業では、主としてドイツの教会建築に関するドイツ語文献を読みながら解説、講義も行う。テキストは受講生を見てから決める。

■受講に当たっての留意事項

購読の授業は出席することが大切。「今日は予習をしていないから欠席して、次回にきちんと予習をしてから出席しよう」と思い出すと脱落する。予習の有無は問わないから遅刻せずに出席すること。

■成績評価方法

出席重視で、学期末レポートと一緒に評価する。

■教科書／参考書

プリントで配布する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	仏語初級 B Beginning French B			
教員名	檜垣 嗣子、ヴィエル エリック			
開講時期	通年	月曜3・木曜3	単位	4
履修対象	学部生			
特記事項	主に建・芸対象。月：檜垣、木：ヴィエル。 2単位に分割不可。			

■授業テーマ

基本レベルのフランス語の習得。

■授業計画及び内容

月曜3限：フランス語文法の基礎を教科書にそって学んでいきます。単純な例文をおぼえ、練習問題で繰り返し復習することによって、基本的な文法事項を理解しましょう。最初歩からのスタートなので、大まかな全体像の把握を目標に、積極的に取り組んでください。

木曜3限：この授業では、将来的に DELF の B1 レベルを取得することを視野に入れています。これは、フランスに留学する際に大学から求められるレベルです。この一般フランス語の授業では、特に DELF の A1 を受けられるレベルに到達することを目指します（詳細はサイト delfdalf.jp を参照）。フランス語の基本レベル。日常生活での単純で具体的な状況を理解できる。相手がゆっくり話すなら、簡単なコミュニケーションが可能。

■受講に当たっての留意事項

月曜3限・木曜3限を併せて受講すること。

■成績評価方法

前後期末の試験結果に平常点を加味する。

■教科書／参考書

月曜3限教科書：『《新版》ル・フランセ』、齋藤昌三著、白水社
木曜3限教科書：『Spirale』 ビアソン・エデュケーション

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	仏語初級 C (取手) French beginner C			
教員名	船岡 美穂子			
開講時期	通年	月曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

初回の授業ではガイダンスを行います。以後、教科書に沿って、初級文法を学ぶとともに、会話の練習を行います。

■授業計画及び内容

初回の授業ではガイダンスを行います。以後、教科書に沿って、初級文法を学ぶとともに、会話の練習を行います。

■受講に当たっての留意事項

教科書と辞書を毎回持参してください。予習・復習をして授業に出席してください。

■成績評価方法

前期・後期に行う期末試験と平常点（出席、予習・復習）を総合して評価します。

■教科書／参考書

『Cafe Francais (カフェ・フランセ)』ニコラ・ガイヤール他著、朝日出版社
プリントも配布予定

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	仏語中級 B French IIB			
教員名	谷本 道昭			
開講時期	通年	金曜 5	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

フランス語の理解を深め、語学力を向上させる。
フランス語の学習を通じてフランス語圏の文化や歴史にふれる。

■授業計画及び内容

教科書、音声教材を用いて、読解、発音、役割練習、聞き取り、書き取りを行うことで、フランス語を総合的に学習する。日常的に用いられるフランス語表現に親しみ、ある程度の長さの文章を読む練習を行う。すでに学習した文法事項のおさらいをしながら、さらに語彙を増やし、基礎的な表現力を身につけることを目指します。

教科書には練習問題がふくまれているので、必ず予習を行うこと。教科書に出てきた単語の意味をあらかじめ調べておくと、授業に集中することができて、効率よくフランス語を学べるようになると思います。

教科書を用いた学習を終えたら、映像や音楽、音声、文字資料などを通じて、フランス語圏の文化、歴史を紹介していく予定です。受講者の希望があれば、芸術家、芸術作品を取り上げたり、芸術に関するテキストを読むことも考えています。フランス語の学習を通じて世界を広げていきましょう。

■受講に当たっての留意事項

受講者には基礎的なフランス語（初級文法）の知識が求められますが、適宜文法の解説を行うので、語学力に自信のない方でも受講は可能です。

語学の学習では辞書（電子辞書は可。ポケット版の小型辞書はおすすめしません）をひく習慣を身につけることが決定的に重要です。授業にもなるべく辞書を持参してください。

■成績評価方法

前期、後期に行う期末試験の点数を重視しつつ、出席や授業態度を平常点として加味して評価します。

■教科書／参考書

教科書として『Amicalement bis アミカルマン・ビス』（駿河台出版社）を使用します。

■備考（オフィスアワー）

相談、質問等は授業後に受けつけます。

授業科目名	仏語上級 A French IIIA			
教員名	新谷 淳一			
開講時期	通年	水曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項	音楽学部では仏語演習 B			

■授業テーマ

フランス語評論文の読解。

■授業計画及び内容

ミシェル・セール (Michel Serres) のいくつかのテキストから、あるテーマにそって抜粋したものを 읽습니다。出典とするのは次の 4 つです。

I 《Musique et bruit de fond》in L'Interference. Hermes II, 1972.

II Esthetiques sur Carpaccio, 1975.

III Carpaccio. Les esclaves liberes, 2007.

IV Musique, 2011.

タイトルから見てとれるように、軸となるのは「音楽」「ノイズ」「カルパッチョ」の 3 項です。最後の固有名詞がどう関係するのか、常人には想像しにくいのですが、セールの頭のなかではリンクしています (たとえば II の最終章はノイズ／音楽を論じています)。そのリンクの意味合いが常人にもわかるように、抜粋をうまく配列して読み進めたいと考えています。

I・II には邦訳があります。I・II と III・IV の執筆時期はへだたっており、著者が一貫して関心を持ち続けてきたテーマだとわかります。I・II は、若さと時代ゆえに、かなり尖った読みにくい文章です。III・IV では著者も丸くなり、時流にそくしたソフトな語り口になっています。授業で読むのは、III・IV からのものが多くなるでしょう。

著者セールは、理科と文科を自在に越境する、スケールの大きな思想家です。あまりにスケールが大きいため、常人には、大風呂敷を広げているだけとも見えます。ところが、一九九〇年代までは胡散臭く思えたセールの「アナログック」で「非実証的」なヴィジョンが、「デジタル」による世界像の変貌とともに、ある種の現実味を持つようになった感があります。いわば「時代がセールに追いついた」ことが、今セールを読もうとする理由のひとつです。

ついでにひとこと。セールのデビュー作は『ライブニッツのシステム』という大著です。「二進法＝デジタル」と「微積分法＝連続」という 2 つの方法の生みの親であるライブニッツは、理科と文科の統合的ヴィジョンを体現する名です。セールの思考の根底にあるライブニッツは、この授業にとっての「隠れキャラ」的な存在かもしれません。

■受講に当たっての留意事項

音楽学部との共通の授業。

語学的な説明を十分に行ないながらも、内容も楽しめるものにしたと思います。和訳のプリントを配布し、上級なみの語学力がなくとも受講可能ですので、興味のある方は気軽にしてみてください。

■成績評価方法

期末の試験＝7 割。出席と授業への参加＝3 割。

■教科書／参考書

プリント配布。

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	仏語上級 C French IIIC			
教員名	高木 真喜子			
開講時期	後期	水曜 2	単位	1
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	芸術学科・西洋美術史・演習と併習 (振替措置)			

■授業テーマ

中世美術に関するフランス語文献の講読、読解およびディスカッション

■授業計画及び内容

初回の授業でガイダンスを行います。

2 回目以降は、各回学生の担当者を中心に講読、読解を進めます。

フランス語を中級程度まで履修した学生を主な対象に想定し、美術史関係の専門的な文献を読んで内容を理解する、言及されている事例について調べるなど、講読に基づいた演習を行います。

以下文献のいずれかの章をテキストとして使用する予定です。初回ガイダンス時に、候補となるテキストの概要を説明し、受講生の希望を聞いた上で選びます。

Splendeur de l'enluminure: le roi Rene et les livres, 2009

Boespflug, Francois, Dieu et ses images: une histoire de l'eternel dans l'art, 2011

■受講に当たっての留意事項

この授業は、「西洋美術史演習」2 単位、もしくは「フランス語上級」1 単位、いずれかの単位として認定される授業です。どちらの単位として履修するかを登録時に判断し、演習として履修する場合は「西洋美術史演習 (高木)」、語学として履修する場合は「フランス語上級 C」の科目名で登録してください。登録後の変更はできません。

■成績評価方法

平常点とレポート

■教科書／参考書

ガイダンス時にテキストのコピーを配布します。

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	伊語初級 A Italian 1A			
教員名	松浦 弘明、リッチ 佐藤 エレナ			
開講時期	通年	月曜5・木曜4	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	月：松浦、木：佐藤。2単位に分割不可。			

■授業テーマ

ゼロからイタリア語を始める学生に、正しい発音を留意しながら、基本的な会話の習得をめざす。
初級文法を一通り終える。

■授業計画及び内容

前期の第1回はガイダンスを行う。
以後、テキストに合わせて、文法の説明と会話の練習を行う。
文法の主な内容：
” 冠詞、名詞と形容詞
” 動詞の現在形（不規則動詞と再帰動詞を含む）
” 補助動詞（sapere、volere、dovere、potere）
” 過去形（近過去と半過去）
” 未来形
” 命令形
など

■受講に当たっての留意事項

予習・復習をして授業に出席すること。

■成績評価方法

2回の筆記試験（前期・後期末）と出席点を合わせて評価。

■教科書／参考書

松浦弘明の授業：松浦弘明「快速マスターイタリア語」語研
リッチ佐藤エレナの授業：遠藤礼子・三宅剛「イタリア語ひとさら」
（改訂版）白水社

■備考（オフィスアワー）

中央棟3階西洋美術史研究室で予約の上行う。

授業科目名	伊語中級 A Italian 2A			
教員名	吉澤 早苗			
開講時期	通年	月曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

イタリア語初級を終えた学生を対象とします。
基礎事項を復習しつつ、さらに高度な文法を学び、日常の身近な事柄をより正確にイタリア語で理解し、表現できるようにすることが目標です。文法学習とあわせ、平易なテキストによる読解練習を行いながら語彙を増やし、美術史研究等にも役立つ実践力を身につけます。

■授業計画及び内容

授業は履修者のレベルに応じて進める予定です。
初級文法の復習を交えながら、遠過去・受動態・比較級と最上級・関係代名詞・条件法・接続法・仮定文などを学びます。各文法事項の学習に際しては、その応用練習として、日常会話の聞き取りや書き取り、また新聞のコラムその他の読解を行います。
中級文法をひととおり終えた後は、文学や美術関連のテキストを取り上げ、より高度な読解練習を試みる予定です。

■受講に当たっての留意事項

文法事項復習のため、そのつど宿題を出す予定です。また、特にテキスト読解の授業は、履修者の予習が前提となりますので、課題は必ず済ませた上で授業に臨んでください。
やむを得ず欠席する場合は、事前に担当教員まで連絡すること。

■成績評価方法

授業への参加度および期末試験（前期・後期各1回）。

■教科書／参考書

プリントを配布します。

■備考（オフィスアワー）

質問その他は、毎回の授業の後に受け付けます。

授業科目名	伊語中級 B Italian 2B			
教員名	リッチ 佐藤 エレナ			
開講時期	通年	木曜 3	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

イタリア語の文法の習得を続けながら、中級レベルの読解、リスニング、会話のトレーニングを行う。

■授業計画及び内容

テキストに沿って、初級 A で学んでいない文法事項（接続法、条件法など）を学習する。テキスト以外にも、プリントなどを通して生きたイタリア語に触れる。

■受講に当たっての留意事項

「初級 A」を終えた学生を対象とする。

■成績評価方法

2 回の筆記試験（前期・後期末）と出席点を合わせて評価。

■教科書／参考書

白崎容子／アントニオ・マイツァ「らくらくマスターイタリア語／初歩から使いこなすまで」郁文堂、コピーの配布。

■備考（オフィスアワー）

中央棟 3 階西洋美術史研究室で予約の上行う。

授業科目名	伊語上級 C - I Italian language (advanced level) C-I			
教員名	越川 倫明			
開講時期	前期	水曜 4	単位	1
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	芸術学科・西洋美術史演習 B- I と併習（振替措置）			

■授業テーマ

イタリア美術史文献講読

■授業計画及び内容

今年度は以下の文献を講読します。

Paolo Giovio, Dialogo dell'imprese militari e amorose (1551), Roma, 1978

受講には、平易なイタリア語の文章ならば読める語学力を必要とします。また、読解力のトレーニングとして若干の宿題も出す予定です。

内容としては、ルネサンス以降大いに流行する「エンブレム本」の代表的な文献です。読解練習に加えて、この種の象徴図像に親しむことも目的とします。

■受講に当たっての留意事項

この授業は、専門科目「西洋美術史演習 B-I」を兼ねていますが、語学単位として履修する場合には 1 単位、演習単位として履修する場合には 2 単位となります（演習単位として認定する場合には別途レポートの提出を課します）。登録時には、語学でとるか演習でとるかを判断し、演習でとる場合には、ここではなく、必ず「西洋美術史演習 B-I」の方に履修登録してください。

■成績評価方法

平常点（出席）と試験

■教科書／参考書

講読テキストはコピーで配布。その他参考書は適宜指示します。

■備考（オフィスアワー）

木曜 12 : 40 ~ 14 : 40（ただしメールで要予約）

授業科目名	伊語上級 C - II Italian language (advanced level) C-II			
教員名	越川 倫明			
開講時期	後期	水曜 4	単位	1
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	芸術学科・西洋美術史演習 B- II と併習（振替措置）			

■授業テーマ

イタリア美術史文献講読

■授業計画及び内容

前期に引き続き、以下の文献を講読します。

Paolo Giovio, Dialogo dell' imprese militari e amorose (1551), Roma, 1978

受講には、平易なイタリア語の文章ならば読める語学力を必要とします。また、読解力のトレーニングとして若干の宿題も出す予定です。

内容としては、ルネサンス以降大いに流行する「エンブレム本」の代表的な文献です。読解練習に加えて、この種の象徴図像に親しむことも目的とします。

■受講に当たっての留意事項

この授業は、専門科目「西洋美術史演習 B-II」を兼ねていますが、語学単位として履修する場合には 1 単位、演習単位として履修する場合には 2 単位となります（演習単位として認定する場合には別途レポートの提出を課します）。登録時には、語学でとるか演習でとるかを判断し、演習でとる場合には、ここではなく、必ず「西洋美術史演習 B-II」の方に履修登録してください。

■成績評価方法

平常点（出席）と試験

■教科書／参考書

講読テキストはコピーで配布。その他参考書は適宜指示します。

■備考（オフィスアワー）

木曜 12：40 ～ 14：40（ただしメールで要予約）

授業科目名	スペイン語（初級） Spanish (Middle Grade)			
教員名	石井 登			
開講時期	通年	金曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

スペイン語文法の習得

■授業計画及び内容

スペイン語の文法学習を中心に、簡単な日常会話の表現も学んでいきます。また、受講者の興味に合わせてスペイン語圏の関連資料等も見ていきます。教科書は全 20 課で、授業は各回 1 課ごとに進む予定ですが、受講者の理解に合わせていきます。

■受講に当たっての留意事項

履修上の注意事項：初回授業にて詳細を案内しますので、必ず出席して下さい。

■成績評価方法

平常点（出席・小テスト・レポート等）50%、試験（前期・後期）50%で評価します。

■教科書／参考書

教科書は『スペイン語の基礎 (Lo basico del espanol)』朝日出版社を使用します。

辞書は『西和中辞典』小学館など。

参考書については、学生のニーズに合わせて紹介します。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	スペイン語（中級） Spanish（Middle Grade）			
教員名	石井 登			
開講時期	通年	金曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

スペイン語文法の復習とスペイン語圏の文化を知る。

■授業計画及び内容

教科書の他に、サブテキスト等を用いて、スペイン語の文章に慣れていきます。初級の授業で学んだスペイン語の知識を用いて、スペイン語圏の文化について考えていきます。

■受講に当たっての留意事項

「スペイン語（初級）」履修済み、あるいはスペイン語初級文法習得者向けの授業です。

■成績評価方法

平常点（出席・小テスト・レポート等）50%、試験（前期・後期）50%で評価します。

■教科書／参考書

教科書は『スペイン語の基礎 (Lo basico del espanol)』朝日出版社を使用します。
辞書は『西和中辞典』小学館など。
参考書については、学生のニーズに合わせて紹介します。また、資料等も適宜配布します。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	中国語初級 Chinese I			
教員名	樫尾 季美			
開講時期	通年	火曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

初心者を対象に1年間の学習を通じて、発音と文法の習得に重点をおきながら、中国語の基礎力を養成します。1年後には中国語で簡単な会話ができ、平易な文を読みこなせることを目標にします。

■授業計画及び内容

前期は、中国語特有の発音および基礎文法に重点をおきます。具体的にはまず、中国語の発音表記システムである「ピンイン」や「四声」を集中的に覚え、その後に文法事項、基礎会話に進みます。

後期は、語彙や文法の学習と並行して、比較的平易な講読を行い、読む練習を行っていきます。

〔授業内容〕

教科書に沿って文法事項の解説、例文の音読・訳解および簡単な練習問題を中心に授業を行います。基本的に前期は毎回授業の初めに発音練習、後期は授業の最後にディクテーションテストを行い、一回ずつの授業の内容習得を確認しながら進めます。
止むを得ず欠席した回については、課題を指示し、できるだけ全体での進度を統一しながら進めたいと思います。

〔授業計画〕前期

第1回：中国語とは 授業オリエンテーション
第2回：中国語の発音①②③

第3回：中国語の発音④⑤⑥⑦
第4回：中国語の発音⑧⑨ 日常のあいさつ
第5回：発音テスト
第6回：第1課
第7回：第1課～第2課
第8回：第2課～第3課
第9回：第3課～第4課
第10回：第4課～第5課
第11回：第5課～第6課
第12回：第6課～第7課
第13回：第7課～第8課
第14回：復讐
第15回：前期試験（口答試験）

〔授業計画〕後期

第1回：前期復習
第2回：復習小テスト
第3回：第9課

第4回：第9課～第10課
第5回：第10課～第11課
第6回：第11課～第12課
第7回：第12課～第13課
第8回：第13課～第14課
第9回：第14課～第15課
第10回：第15課～第16課
第11回：映画鑑賞
第12回：後期復習（テキスト第8課から16課まで）
第13回：後期復習小テスト
第14回：講読
第15回：後期試験

■受講に当たっての留意事項

できる限りシラバスに沿って授業を進めますので、止むを得ぬ事情で欠席した学生は、欠席した回の授業内容を自習しておいてください。
テキスト附属のCDで何度も例文を聞き、発音する癖を身につけてください。

■成績評価方法

前期は毎回授業の初めに発音練習を行い、出席点の要件とします。(1 回 3 点、出席点 45 点)
 その上で、第 5 回目に行う口頭での発音テスト (10 点)、第 15 回目に行う口答試験 (45 点) をあわせ、100 点満点とします。
 後期は第 2 回目に行う前期復習小テスト (20 点) 第 13 回目に行う後期復習小テスト (30 点) 第 15 回目に行う後期試験 (50 点) により 100 点満点とします。

通年で 100 点以上の学生に単位を付与します。

■教科書／参考書

本間史・孟広学『中国語ポイント 5 5』白水社

その他の辞書、参考書については授業中に順次お話しします。

■備考（オフィスアワー）

オフィスアワーは特に設けていませんが、16 時ごろには講師は教室付近で待機していますので、気軽に何でも質問してください。

授業科目名	韓国語初級 Korean I			
教員名	池 鳳花			
開講時期	通年	金曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生 ・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

韓国語Ⅰ（前期） 韓国語Ⅱ（後期）

■授業計画及び内容

韓国語Ⅰ： 韓国語の文字と発音をメインに学習します。ハングル文字の構成を理解し、正しい書き方と読み方を身につけていきます。よって簡単な自己紹介や挨拶ことばが話せることを目指します。
 韓国語Ⅱ： 韓国語Ⅰで学習した内容を復習したうえに、用言の連用形、過去形及び尊敬形など、より豊かな韓国語表現を習得し、場面に応じた一定の日常会話能力を養うことを目指します。

■受講に当たっての留意事項

- (1) 指定の教科書を必ず持参すること
- (2) 韓国語Ⅰ・韓国語Ⅱにおいて出席が全授業回数の 1/3 に満たない場合は受験失格となります。但し体調不良・就職活動・研修旅行など、やむを得ない事情がある場合は除きます。(大学で発行する証明証が必要)

■成績評価方法

出席率 20% 小テスト・宿題 30% 期末試験 50%

■教科書／参考書

教科書： 生越直樹・チョヒ Chol 著 韓国朝鮮語初級テキスト『ことばの架け橋』改訂版 白帝社

参考書： 菅野裕臣『コスモス朝和辞典』白水社
 『小学館日韓辞典』小学館

■備考（オフィスアワー）

都度相談のうえ調整します。

授業科目名	英語会話初級 Beginning English Conversation			
教員名	平田 アンナ			
開講時期	通年	金曜 3	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスでは主にスピーキングとリスニングの練習を重ねることによって英語に慣れる努力をします。何となく英語で簡単な会話が出来ると思っていても、実際に中々通じないことがあるものです。スピードはゆっくりでも、正確でスムーズに話せるように練習します。

■授業計画及び内容

授業は基本的には英語で行いますが、日本語と英語の微妙なニュアンスの違いなどは日本語で説明します。メインテキストは初歩の文法、簡単な語彙、発音、イントネーションも会話を通して学べるように工夫されています。CDを活用して、スピーキングとリスニングの練習をします。授業ではペアで会話練習を重ね、リラックスした雰囲気の中で、実際に声を出して英語に慣れることを目指します。授業参加が非常に大事なクラスです。

■受講に当たっての留意事項

授業第一日目に Placement Test を行います。他の授業の関係でテストを受けられない場合は、必ず、連絡して下さい。聴講は不可です。授業には、英和・和英（出来たら英英）辞書、B5 の紙を持参すること。公欠、その他やむを得ず欠席する場合は、必ず前もって届け出て下さい。年間 9 回まで欠席可。二度連続無断欠席は失格。

■成績評価方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価します。このうち出席と授業参加を最も重要視します。

■教科書／参考書

Interchange, 4th Edition, Intro, Student's Book A with Self-study DVD-ROM, Cambridge University Press, 2012.

■備考（オフィスアワー）

メールでアポイントメントを取ってください。連絡先は、言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に問い合わせてください。

授業科目名	英語会話中級 A Intermediate English Conversation A			
教員名	平田 アンナ			
開講時期	通年	金曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

英語を楽しく学ぶこと。英語に慣れること ― つまり、書いたり、読んだり、聞いたり、話したりすることに慣れるのが目的です。このうち話すことに重きを置きます。英語会話初級（金曜日 3 限）と英語会話中級（B）（金曜日 5 限）の丁度中間のレベルです。

■授業計画及び内容

授業は基本的に英語で行います。なるべく英語に慣れるようにするためです。しかし文法の説明や、日本語と英語の微妙なニュアンスの違いなどは日本語でも説明します。メインテキストを基に、お互いの interaction を通じて、リスニング、スピーキングの練習を重ねます。授業時間は限られていますが、CD を活用して、クラス外でもスピーキングとリスニングの練習が出来ます。自習した成果を試す為にも授業参加は非常に重要です。

■受講に当たっての留意事項

聴講は認めません。授業には必ず英和・和英（出来たら英英）辞書、B5 の紙を持参すること。出席と授業参加を最も重視。公欠、その他やむを得ず欠席する場合は、必ず前もって届け出てください。年間 9 回まで欠席可。二度連続無断欠席は失格。

■成績評価方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価します。このうち出席と授業参加を最も重要視します。

■教科書／参考書

English Firsthand 1 (4th Edition), Marc Helgesen, Steven Brown, & John Wiltshier, Longman.

■備考（オフィスアワー）

メールでアポイントメントを取ってください。連絡先は、言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に問い合わせてください。

授業科目名	英語会話中級 B Intermediate English Conversation B			
教員名	平田 アンナ			
開講時期	通年	金曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスは、英語会話中級 A（金曜・4 限）の 1 つ上のレベルのクラスです。上級のクラスで時事・文学等のテーマを自由に表現するにはまだ会話能力が足りないが、一般的な話題、日常会話はかなりスムーズに出来る学生が対象です。

■授業計画及び内容

授業は基本的には英語で行います。メインテキストと CD を活用し、ペアやグループ活動を通してなるべく話す機会を設けます。教科書は会話のみでなく、英語を学ぶときに不可欠な文法の知識や語彙を文脈の中で覚えるための工夫がされています。授業参加を最も重視します。

■受講に当たっての留意事項

聴講は認めません。授業には必ず英和・和英（出来たら英英）辞書、B5 の紙を持参すること。出席と授業参加を最も重視。公欠、その他やむを得ず欠席する場合は、必ず前もって届け出てください。年間 9 回まで欠席可。二度連続無断欠席は失格。

■成績評価方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価します。このうち出席と授業参加を最も重要視します。

■教科書／参考書

Interchange, 4th Edition, Level 2, Student's Book A with Self-study DVD-ROM, Cambridge University Press, 2012.

■備考（オフィスアワー）

メールでアポイントメントを取ってください。連絡先は、言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に問い合わせてください。

**外国語科目
(言語音声トレーニングセンター)**

授業科目名	英語会話 I a English Conversation Ia			
教員名	平田 アンナ			
開講時期	通年	月曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスでは基礎を踏まえて、実際に使える英語に慣れることを目指します。具体的には、英語のリズム、抑揚、間のおき方、日常英語の言い回し、などです。リラックスして、自信を持って英語を聞いたり話したり出来るように毎回練習を重ねます。

■授業計画及び内容

様々な Class Activities を通して、英語を総合的に（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）学びます。英語圏と日本の文化的背景が異なるために生じる微妙なニュアンスの違いや、文法の説明などは、日本語で説明しますが、授業全体は基本的に英語で行います。

■受講に当たっての留意事項

このクラスは中級のクラスです。初級、あるいは中級の上～上級と自己判断した学生は遠慮してください。聴講は認めません。授業初日に Placement Test を行います。初日に出席出来ない学生は、必ず言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に連絡してください。出席は非常に重要です。通年、2回連続無断欠席、および10回以上の欠席は失格です。授業には必ず辞書、B5 のルーズリーフを持参のこと。

■成績評価方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価しますが、このうち出席と授業参加態度を最も重要視します。

■教科書／参考書

プリントを随時配布します。

■備考（オフィスアワー）

メールでアポイントメントを取ってください。連絡先は、言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に問い合わせてください。

授業科目名	英語会話 I b English Conversation Ib			
教員名	グリブル ジョン			
開講時期	通年	火曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

The purpose of this class is to help students be able to understand and communicate easily in useful English. The goal is to have each student develop an English communication strategy which works.

This is a speaking and listening class. In order to be successful, students must attend class regularly, do all the exercises and activities, have their textbooks, dictionaries and other supplies with them in class, practice their English on their own, and be ready for in-class interviews.

The class will follow a similar format each week. There will be a Question and Answer ("Q & A") session. Each student answers one of several conversation questions, such as, "What did you do last Saturday?" or, "What's your favorite class? Why?" This will be followed by a review. The students will then work as a class, in groups, or in pairs on that week's textbook material.

There will also be other activities, which may include games, songs, pronunciation drills, or a group activity. There will be occasional in-class interviews.

This is an English-only class.

■授業計画及び内容

First Term:

1. Introduction to the class.
2. Question and Answer, begin Unit 1, "To be," "Personal Information."
3. Question and Answer, complete Unit 1, "Meeting People."
4. Question and Answer, begin Unit 2, "To be?location and objects."
5. Question and Answer, complete Unit 2, "Around town, around the world."
6. Question and Answer, begin Unit 3, Continuous verb tense, "Activities."
7. Question and Answer, Complete Unit 3, "More Activities," Review.
8. Question and Answer, begin Unit 4, Possessive adjectives, "Activities."
9. Question and Answer, complete Unit 4, More Possessives
10. Question and Answer, begin Unit 5, "Yes/No questions and answers."
11. Question and Answer, complete Unit 5, Review.
12. Question and Answer, begin Unit 6, Prepositions of location, "Family."
13. Question and Answer, complete Unit 6, prepositions, "Activities and Events," Review.
14. Final Interview Examination

Second Term:

1. Introduction and Review.
2. Question and Answer, begin Unit 7, plurals, "Locating places."
3. Question and Answer, complete Unit 7, "Describing places."
4. Question and Answer, begin Unit 8, more plurals, "Clothes."
5. Question and Answer, complete Unit 8, "This, That, These, Those."

6. Question and Answer, begin Unit 9, present tense, “Languages and Nationalities.”
7. Question and Answer, complete Unit 9, Review.
8. Question and Answer, begin Unit 10, present tense, “Activities.”
9. Question and Answer, complete Unit 10, “Special Interests.”
10. Question and Answer, begin Unit 11, adverbs of frequency, “How often...?”
11. Question and Answer, complete Unit 11, “Describing people.”
12. Question and Answer, begin Unit 12, “Feelings.”
13. Question and Answer, complete Unit 12, “Unusual Activities,” Review.
14. Final Interview Examination

■受講に当たっての留意事項

英和辞典、和英辞典、英語学習者用辞典、筆記用具とノート類を持参すること。

■成績評価方法

出席状況と授業活動への参加具合をみて採点します。

■教科書／参考書

Molinsky and Bliss, Side By Side, Third Edition, Student Book One, Pearson Longman.

■備考（オフィスアワー）

教室で指示する。

授業科目名	英語会話 I c English Conversation Ic			
教員名	コリンズ キム ソノコ			
開講時期	通年	水曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの目的は、英語を積極的に使うことにより、会話能力を高めることです（中級）。コミュニケーション技能を向上させるため、読む、書く、聞く、話すことを通じて、英語に習熟しましょう。

■授業計画及び内容

＜授業内容＞

このコースは、レベルチェックテストと自己紹介から始まります。英語で課題に取り組んでもらいます。単語の小テストを授業の始めに行います。授業中の話題や課題のため、新聞やブログの記事を使います。年度末に、一年のまとめの提出とインタビューがあります。

＜授業計画＞

Tasks include:

Introductions - talking about likes/dislikes/personalities/
family
Presentations/show and tell on a topic such as travel/food/
culture
Writing a diary/blog
Powerpoint/visual presentation of an inspirational person/
movie
Discuss/express opinions on a topic - Example; The Future/
Environment
Interview

■受講に当たっての留意事項

このクラスのレベルは、「英語中級」（美術学部）・「英語Ⅱ」（音楽学部）に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストを行います。毎回出席し、欠席する場合には、欠席届を提出すること。課題をやり遂げること、積極的な参加姿勢が求められます。欠席する場合には、教師に授業進度を確認してください。

■成績評価方法

出席、授業への参加具合、課題の達成度、単語テストと、ポートフォリオとインタビューに基づき採点します。

■教科書／参考書

テキストは使いませんが、プリントや課題をまとめる A4 ファイルが必要。

■備考（オフィスアワー）

Email:[mail]sonoko31@gmail.com[/mail]

授業科目名	英語会話Ⅱ a English Conversation IIa			
教員名	グリブル ジョン			
開講時期	通年	火曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの目的は、学生の英語を話す能力、読み、書く能力を、会話Ⅰのクラスに引き続き練習を通して上達させることである。初回授業で担当教員による面接をし、英語力が十分に達しているか判断する。主な教材としては、さまざまなアーティストとのコラボレーションをするチェリスト、ヨー・ヨー・マのビデオ教材、「Inspired By Bach」を用いる。学生はこのビデオについて議論をするほか、芸術をテーマとした短い発表を2回おこなう。授業では、教科書“Side by Side, Third Edition, Book 1”も使用する。

■授業計画及び内容

First Term, Week:

1. Introduction to the class, Student Interviews
2. Video, “Struggle For Hope” (1) textbook exercise
3. Video, “Struggle For Hope” (2) textbook exercise
4. Video, “Falling Down Stars” (1) textbook exercise
5. Presentation Demonstration and Topics
6. Video, “Falling Down Stars” (2) textbook exercise
7. Video, “The Music Garden” (1) Foreigner interview questions
8. Video, “The Music Garden” (2) Foreigner interview questions
9. Presentation skills and practice
10. Presentations (1)
11. Presentations (2)
12. Foreigner interview questionnaire distributed, interview strategies discussed.
13. Review of the videos
14. Final discussion?Ranking the three videos

Second Term, Week:

1. Review of the First Term materials.
2. Video, “Six Gestures” (1) textbook exercise
3. Video, “Six Gestures” (2) textbook exercise
4. Foreigner Interview presentations
5. Presentation Demonstration and Topics
6. Video, “Sarabunde” (1) textbook exercise
7. Video, “Sarabunde” (2) textbook exercise
8. Video, “The Sound of the Carceri” (1) textbook exercise
9. Video, “The Sound of the Carceri” (2) textbook exercise
10. Presentations
11. Presentations
12. Review of Second Term videos
13. Review of First Term videos.
14. Final meeting?Review and ranking all six videos

■受講に当たっての留意事項

学生は毎回授業に出席し、クラスの活動やディスカッションに参加すること。また、期日内に課題を提出すること。

■成績評価方法

出席回数、授業への参加度、課題の提出具合によって成績が付与される。

■教科書／参考書

Molinky, Steven J. and Bill Bliss, Side By Side, Third Edition, Book 1.

■備考（オフィスアワー）

学生と相談して決める。

授業科目名	英語会話Ⅱ b English Conversation IIb			
教員名	コリンズ キム ソノコ			
開講時期	通年	木曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの目的は、英語を積極的に使うことにより、会話能力を高めることです（上級）。コミュニケーション技能を向上させるために、読む、書く、聞く、話すことを通じて、英語能力を高めましょう。

■授業計画及び内容

<授業内容>

このコースは、レベルチェックテストと自己紹介から始まります。英語で課題に取り組んでもらいます。単語の小テストを授業の始めに行います。授業中の話題や課題のため、新聞やブログの記事を使います。年度末に、一年のまとめの提出とインタビューがあります。

<授業計画>

Tasks include:

Introductions - talking about likes/dislikes/personalities/family

Presentations/show and tell on a topic such as travel/food/culture

Writing a diary/blog

Powerpoint/visual presentation of an inspirational person/movie

Discuss/express opinions on a topic - Example: The Future/Environment

Interview

■受講に当たっての留意事項

このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストを行います。毎回出席し、欠席する場合には、欠席届を提出すること。課題をやり遂げること、積極的な参加姿勢が求められます。欠席する場合には、教師に授業進度と課題を確認してください。

■成績評価方法

出席、授業への参加度、課題の達成、単語テストと、ポートフォリオとインタビューに基づき採点します。

■教科書／参考書

テキストは使いませんが、プリントや課題をまとめる A4 ファイルが必要。

■備考（オフィスアワー）

Email:[mail]sonoko31@gmail.com[/mail]

授業科目名	英語会話Ⅲ a English Conversation IIIa			
教員名	平田 アンナ			
開講時期	通年	月曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

日常会話はもとより、時事問題、歴史・文化など多岐に渡る話題についてある程度自由に会話ができる学生のための上級のクラスです。レベルは月曜・5限、英語会話 IIIb の一つ下になります。様々な状況に対応できるように英語のコミュニケーションスキルを総合的に向上させるのが目的です。

■授業計画及び内容

主教材を基にボキャブラリーや慣用表現を増やし、新聞、雑誌、テレビドラマ、エッセーなどの副教材を通して、英語圏の文化を学び、文化比較など、様々なテーマについて日常会話、およびディスカッションの練習を重ねます。又、話すのみでなく、書く事によって自分の意見や感想をより的確に表現出来るようにします。

■受講に当たっての留意事項

このクラスは上級のクラスです。聴講は認めません。初日に Placement Test を行います。どうしても初日に出席できない場合は、前もって言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に連絡すること。以後、公欠、その他の理由でやむを得ず欠席する場合は、必ず前もって届け出ること。年間9回まで欠席可。二度連続無断欠席は失格。B5 のルーブリーフと辞書を必ず持参すること。

■成績評価方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価しますが、このうち「出席と授業参加」を最も重視します。

■教科書／参考書

プリントを随時配布します。

■備考（オフィスアワー）

メールでアポイントメントを取ってください。連絡先は言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に問い合わせてください。

授業科目名	英語会話Ⅲ b English Conversation IIIb			
教員名	平田 アンナ			
開講時期	通年	月曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

日常会話はもとより、時事問題、歴史・文化など多岐に渡る話題についてかなり自由に会話ができる学生のための上級のクラスです。レベルは月曜・4限、英語会話 IIIa の一つ上になります。様々な状況に対応できるように英語のコミュニケーションスキルを総合的に向上させるのが目的です。

■授業計画及び内容

主教材を基にボキャブラリーや慣用表現を増やし、新聞、雑誌、映画、エッセーなどの副教材を通して、英語圏の文化を学び、文化比較など、様々なテーマについて高度なディスカッションの練習を重ねます。又、話すのみでなく、書く事によって自分の意見や感想をより的確に表現出来るようにします。

■受講に当たっての留意事項

このクラスは上級のクラスです。聴講は認めません。初日に Placement Test を行います。どうしても初日に出席できない場合は、前もって言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に連絡すること。以後、公欠、その他の理由でやむを得ず欠席する場合は、必ず前もって届け出ること。年間9回まで欠席可。二度連続無断欠席は失格。B5 のルーブリーフと辞書を必ず持参すること。

■成績評価方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価しますが、このうち「出席と授業参加」を最も重視します。

■教科書／参考書

プリントを随時配布します。

■備考（オフィスアワー）

メールでアポイントメントを取ってください。

授業科目名	英語作文Ⅰ English Composition I			
教員名	グリブル ジョン			
開講時期	通年	火曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの主目的は、学生の英語を書く能力を練習によって伸ばすことです。受講生は、毎週、クラスの中でさまざまな話題について書く練習をし、学生同士で間違いを訂正します。また、自分が前週に書いた文章もチェックします。アイデアを生みだし、それを効果的に表現するテクニックを学んでいきます。

■授業計画及び内容

First term, Week:

1. Introduction to the class. Discussion: “Why do we write?”
2. Self Introduction
3. Introduce a Classmate
4. “Morning Person/Night Person”
5. “My Family”
6. “A Family Member”
7. “The Weekend”
8. A Scary or Funny Story (1)
9. A Scary or Funny Story (2)
10. My Favorite Holiday
11. The Best (or Worst) Part of the Holiday Vacation.
12. “A Person Important to Me”
13. Plans for the Semester Break.
14. Group Haiku translation

Second term, Week:

1. Best (or Worst) of Summer
2. My Best (or Worst) Day ever (1)
3. My Worst (or Best) Day Ever (2)
4. My Favorite Place (1)
5. My Favorite Place (2)
6. Write a Story (1)
7. Write a Story (2)
8. The Ideal Spouse
9. “My Other Career”
10. Why I Came to Geidai
11. My Opinion
12. Poems in English (1)
13. Poems in English (2)
14. Final Class Meeting?Writing a Song

■受講に当たっての留意事項

学生は毎回出席し、与えられた作文の課題を仕上げるように。

■成績評価方法

出席と課題の提出具合により採点する。

■教科書／参考書

Singleton, Jill. Writers at Work: The Paragraph.

和英辞典、英和辞典、筆記用具（赤ペンか赤鉛筆を含む）
また、英語学習者用辞典 (Longman or Oxford) の使用を薦める。

■備考（オフィスアワー）

教室で指示する。

授業科目名	Advanced Writing (英語作文Ⅲ) Advanced Writing (English Composition III)			
教員名	磯部 美和			
開講時期	通年	水曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

パラグラフやエッセイの書き方

■授業計画及び内容

パラグラフやエッセイの構成法を学習しながら、実際に自分でパラグラフやエッセイを作成する。これにより、英語の文章で自分の意見や研究内容をわかりやすく論理的に表現する能力を養う。

■受講に当たっての留意事項

- ・履修希望者は、初回の授業に必ず出席すること（履修人数を制限することがある）。初回授業に出られない場合は、4月11日（金）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。
- ・このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当するので、高等学校までで学習した英文法・表現を復習済みであることを前提とする。
- ・課題は文書作成ソフトで作成し、電子メールで提出することが求められる。

■成績評価方法

各学期末試験・毎回の課題提出・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業態度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の 1/3 以上無断欠席した場合、および出席は十分であっても、決められた課題を提出しない場合は失格とする。また、課題の作成時に翻訳ソフトの使用や剽窃が認められた場合は、その時点で失格とする。

■教科書／参考書

<教材>

Oshima, A. and A. Hogue (2007) Writing Academic English. Longman.

<参考書>

授業中に紹介する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

授業科目名	実用英語 I a Practical English Ia			
教員名	磯部 美和			
開講時期	通年	月曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

英語による自己表現能力の養成

■授業計画及び内容

これまでの英語学習で身につけてきた基本的な知識を基に、「話す」「書く」といった能動的な活動を行うことで、日常会話能力・自己表現能力をさらに養う。主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 基本的な構文・文法事項などの学習
2. 身近なトピックに関する会話・ディスカッション
3. 単語・表現の小テスト（毎回授業開始時に実施）
4. 自分の研究領域についてのプレゼンテーション

■受講に当たっての留意事項

- ・履修希望者は初回の授業に必ず出席してレベルチェックテストを受けること。初回授業に出られない場合は、4月11日（金）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。
- ・このクラスのレベルは、「英語中級」（美術学部）・「英語Ⅱ」（音楽学部）に相当するので、基本的な英文法や語彙を身につけていることを前提とする。
- ・原則として、実用英語Ⅰb、Ⅱa、Ⅱbとの重複履修不可。
- ・授業への積極的な参加姿勢、および十分な予習・復習が要求される。

■成績評価方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業態度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の1/3以上の無断欠席は失格とする。

■教科書／参考書

<教材>

受講者と相談のうえ決定する。

<参考書>

授業時間内に紹介する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

授業科目名	実用英語 I b Practical English Ib			
教員名	磯部 美和			
開講時期	通年	金曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

英語による自己表現能力の養成

■授業計画及び内容

これまでの英語学習で身につけてきた基本的な知識を基に、「話す」「書く」といった能動的な活動を行うことで、日常会話能力・自己表現能力をさらに養う。主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 基本的な構文・文法事項などの学習
2. 身近なトピックに関する会話・ディスカッション
3. 単語・表現の小テスト（毎回授業開始時に実施）
4. 自分の研究領域についてのプレゼンテーション

■受講に当たっての留意事項

- ・履修希望者は初回の授業に必ず出席してレベルチェックテストを受けること。初回授業に出られない場合は、4月16日（水）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。
- ・このクラスのレベルは、「英語中級」（美術学部）・「英語Ⅱ」（音楽学部）に相当するので、基本的な英文法や語彙を身につけていることを前提とする。
- ・原則として、実用英語Ⅰa、Ⅱa、Ⅱbとの重複履修不可。
- ・授業への積極的な参加姿勢、および十分な予習・復習が要求される。

■成績評価方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業態度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の1/3以上の無断欠席は失格とする。

■教科書／参考書

<教材>

受講者と相談のうえ決定する。

<参考書>

授業時間内に紹介する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

授業科目名	実用英語 I c Practical English Ic			
教員名	コリンズ キム ソノコ			
開講時期	通年	火曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの目的は、学術のために実践的な能力（中級）を身につけることです。読む、書く、話す、聞く、語彙を増やすことで英語に習熟しましょう。

■授業計画及び内容

＜授業内容＞

最初の授業でレベルチェックテストと導入を行います。
読む、書く、語彙を増やすことや、話す能力に焦点を当てます。
学期中、単語テストを行います。
学期末には、プレゼンテーション、自己評価、インタビューが求められます。

＜授業計画＞

Topics (based on Text)

1st Semester:

Study Abroad - filling forms/writing emails

Countries - descriptions/presentation

Modern Technology - discussion for and against

Conferences and visits - formal writing/speech

2nd Semester:

Science and the world - paraphrasing, summarizing/expressing opinions

People: past and present - research on internet-presentation

IT/Computers - linking ideas/abbreviations/crediting sources/
written report

Inventions, process - describing a process

Travel and tourism - interpreting data and presenting graphs,
charts.

■受講に当たっての留意事項

このクラスのレベルは、「英語中級」（美術学部）・「英語 II」（音楽学部）に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストを行います。毎回授業に出席し、欠席する場合には欠席届を提出すること。課題をやり遂げ、授業活動に十分参加するように。欠席した時は、授業の進度を教師に確認して下さい。

■成績評価方法

出席、授業への参加具合、課題の達成度、単語テスト、プレゼンテーション、学期末のインタビューによって採点します。

■教科書／参考書

New Headway Academic Skills, Reading, Writing, and Study Skills Level 2 (Sarah Philpot/ Series Editors John and Liz Soars: 2010 Oxford)

■備考（オフィスアワー）

Email: [mailto:sonoko31@gmail.com] [mailto:sonoko31@gmail.com]

授業科目名	実用英語 II a Practical English IIa			
教員名	磯部 美和			
開講時期	通年	月曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

英語による自己表現能力の養成

■授業計画及び内容

これまでの英語学習で身につけてきた運用能力を基に、「話す」「書く」といった能動的な活動を行うことで、より高度な日常会話能力・自己表現能力を養う。主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 実用的な表現方法や論理的に意見を述べる方法
2. 身近なトピックに関するディスカッション
3. 自分の研究領域についてのプレゼンテーション
4. 単語・表現の小テスト（毎回授業開始時に実施）

■受講に当たっての留意事項

・履修希望者は初回の授業に必ず出席してレベルチェックテストを受けること。初回授業に出られない場合は、4月11日（金）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。

・このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当するので、高等学校までで学習した英文法・表現を復習済みであることを前提とする。

・原則として、実用英語 I a, I b, II b との重複履修不可。

・授業への積極的な参加姿勢、および十分な予習・復習が要求される。

■成績評価方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業への貢献度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の1/3以上の無断欠席は失格とする。

■教科書／参考書

＜教材＞

新聞記事やインターネット上の講演ビデオを利用する予定であるが、詳細は受講者と相談のうえ決定する。

＜参考書＞

授業時間内に紹介する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

授業科目名	実用英語Ⅱb Practical English IIb			
教員名	磯部 美和			
開講時期	通年	金曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

英語による自己表現能力の養成

■授業計画及び内容

これまでの英語学習で身につけてきた運用能力を基に、「話す」「書く」といった能動的な活動を行うことで、より高度な日常会話能力・自己表現能力を養う。主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 実用的な表現方法や論理的に意見を述べる方法
2. 身近なトピックに関するディスカッション
3. 自分の研究領域についてのプレゼンテーション
4. 単語・表現の小テスト（毎回授業開始時に実施）

■受講に当たっての留意事項

- ・履修希望者は初回の授業に必ず出席してレベルチェックテストを受けること。初回授業に出られない場合は、4月16日（水）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。
- ・このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当するので、高等学校までで学習した英文法・表現を復習済みであることを前提とする。
- ・原則として、実用英語Ⅰa、Ⅰb、Ⅱbとの重複履修不可。
- ・積極的な参加姿勢、および十分な予習・復習が要求される。

■成績評価方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業態度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の1/3以上の無断欠席は失格とする。

■教科書／参考書

＜教材＞

新聞記事やインターネット上の講演ビデオを利用する予定であるが、詳細は受講者と相談のうえ決定する。

＜参考書＞

授業時間内に紹介する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

授業科目名	実用英語Ⅱc Practical English IIc			
教員名	コリンズ キム ソノコ			
開講時期	通年	木曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの目的は、（上級）英語における実践的な能力を身につけることです。読み書きの課題とプレゼンテーションに加え、話す／聞く／語彙を増やすことで英語に習熟しましょう。

■授業計画及び内容

＜授業内容＞

最初の授業でレベルチェックテストと導入を行います。話す、聞く、そして読み書き能力に焦点を当てます。単語小テストやプレゼンテーションを課します。

＜授業計画＞

トピック (based on Text)

前期：

1. Moving on：new places, new people - Introductions
2. Island States: talking about countries
3. Careers in the media: talking about jobs and studies
4. Innovations from nature: using visuals, describing objects
5. Conversations: making conversation

後期：

6. Food Science: listening for gist, taking notes, checking understanding.
7. Great Lives: Listening for details, giving opinions and presentation.
8. Communication: surveys, talking to strangers
9. Significant objects: supporting an argument
10. Responsible Tourism: longer listening, transitions, dealing with questions and presentation.

■受講に当たっての留意事項

最初の授業でレベルチェックテストを行います。毎回授業に出席し、欠席する場合には欠席届を提出すること。課題をやり遂げ、授業活動に十分参加するように。欠席した時は、授業の進度を教師に確認して下さい。

■成績評価方法

このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当します。

出席、授業への参加度、課題の達成度、単語小テスト、プレゼンテーション、期末口頭試験によって評価します。

■教科書／参考書

Headway Academic Skills Listening, Speaking and Study Skills Level 2 (Sarah Philpot and Lesley Curnick: Oxford 2011)

■備考（オフィスアワー）

Email:[mailto:sonoko31@gmail.com[/mail]

授業科目名	英語原典指導 A Consulting Hours A			
教員名	グリブル ジョン			
開講時期	通年	火曜 5	単位	0
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり 30 分の指導が受けられる。

■受講に当たっての留意事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室（音楽学部 4 号館 4-209）にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■成績評価方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。（この授業を履修登録することはできない。）

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	英語原典指導 B Consulting Hours B			
教員名	コリンズ キム ソノコ			
開講時期	通年	水曜 4	単位	0
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり 30 分の指導が受けられる。

■受講に当たっての留意事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室（音楽学部 4 号館 4-209）にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■成績評価方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。（この授業を履修登録することはできない。）

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	独語会話 I a German Conversation Ia			
教員名	シュタイン ミヒャエル			
開講時期	通年	火曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツ語は、読み書きだけのものではなく、話し言葉である。特に留学を考えれば、早めに言葉の壁を乗り越えよう。

■授業計画及び内容

初級・中級向きのドイツ語会話。日常的なドイツ語会話の能力をグレード・アップする。ドイツ語をコミュニケーションの手段と見て、おしゃべりするのがこのコースの目的です。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

授業中の勉強意欲・予習・出席率を基に成績をつけます。

■教科書／参考書

プリントを配布する。

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	独語会話 I b German Conversation Ib			
教員名	ククリンスキ アンドレア			
開講時期	通年	木曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツ語圏諸国での日常生活に必要な基礎的な会話ができる運用能力を養う。会話の授業であるため、重点は口頭の練習にある。

■授業計画及び内容

ドイツ語（主に文法）を 1 年以上学んだ学生を対象とする。簡単な挨拶などのような身近な場面からスタートし、数多くの練習によってドイツ語の実際の会話能力を養う。授業の重点は「話す・聞く」の能力の養成にあるため、練習の第一目的は、学生の日常生活に必要な語彙を増やすことにある。場合によっては、解説と作文練習も行う。この授業に 1 年間続けて参加することで、ドイツ語圏諸国での日常生活ができる程度のコミュニケーション能力を身につけることを目指す。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

授業への参加・宿題・出席率・随時行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。さらに、各学期末には、口頭試験を行う。

■教科書／参考書

“studio [21]” A1/1: Das Deutschbuch, Cornelsen-Verlag

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	独語会話 I c German Conversation Ic			
教員名	ククリンスキ アンドレア			
開講時期	通年	金曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツ語圏諸国での日常生活に必要な基礎的な会話ができる運用能力を養う。会話の授業であるため、重点は口頭の練習にある。

■授業計画及び内容

ドイツ語（主に文法）を 1 年以上学んだ学生を対象とする。簡単な挨拶などのような身近な場面からスタートし、数多くの練習によってドイツ語の実際の会話能力を養う。授業の重点は「話す・聞く」の能力の養成にあるため、練習の第一目的は、学生の日常生活に必要な語彙を増やすことにある。場合によっては、解読と作文練習も行う。この授業に 1 年間続けて参加することで、ドイツ語圏諸国での日常生活ができる程度のコミュニケーション能力を身につけることを目指す。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

授業への参加・宿題・出席率・随時行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。

■教科書／参考書

“studio [21]” A1/1: Das Deutschbuch, Cornelsen-Verlag

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	独語会話 II German Conversation II			
教員名	ククリンスキ アンドレア			
開講時期	通年	木曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツ語会話の能力をさらに伸ばし、ドイツ語圏諸国での長期滞在に必要なコミュニケーション・スキルの養成を図る。

■授業計画及び内容

ドイツ語の基礎的な会話能力を身につけた学生を対象とし、その能力を実際の会話練習によってさらに伸ばす。ごく簡単な文法を基に、広範囲に渡る内容をドイツ語で表現する能力を習得する。授業の重点は「話す・聞く」の能力の養成にあるため、練習の第一目的は、学生の日常生活に必要な語彙を増やすことにある。場合によっては、解読と作文練習も行う。特に留学を考える学生にとり、留学先の日常・学生生活に必要な言語能力を身につける有益な授業である。また、声楽の学生へ向けて、発音練習も数多く行う。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

授業への参加・宿題・出席率・随時行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。さらに、各学期末には、口頭試験を行う。

■教科書／参考書

studio d A1, Teilband 2, Cornelsen-Verlag

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	実用ドイツ語 I a Practical German Ia			
教員名	シュタイン ミヒャエル			
開講時期	通年	水曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

初級で勉強した文法・語彙などが、実際に文章や会話でいかに使われるかを知り、体験する。

■授業計画及び内容

初級を終え、さらにドイツ語を続けたいと思う学生のためのコース。イラスト付きのやさしいテキストを使い、会話と練習問題に挑戦する。主にドイツ語を始めて2年目の学生を対象とする。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

予習・宿題・勉強への積極性・テスト・出席率を基に、成績をつける。

■教科書／参考書

「蜂蜜瓶の中に消えた指輪」『Der Ring im Honigglas』、同学者

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	実用ドイツ語 I b Practical German Ib			
教員名	ククリンスキ アンドレア			
開講時期	通年	金曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

初級で身につけたドイツ語能力を実際の練習において運用させ、ドイツ語による自己表現能力（話す・聞く・読む・書く）を養成する。

■授業計画及び内容

ドイツ語（主に文法）を1年以上学んだ学生を対象とする。この授業の第一目的は、学習者があらゆるシチュエーションにおいて、自分から積極的にドイツ語でコミュニケーションを取る能力の養成にある。ドイツ語会話に重点を置く教科書を基盤に、学生全員が参加する実際の練習によってドイツ語の運用能力を高める。発音練習、パートナーとの練習やゲーム等々、数多く取り入れる。練習の第一目的は、学生の日常生活に必要な語彙を増やすことにある。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

授業への参加・宿題・出席率・随時行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。

■教科書／参考書

- (1) “Menschen” A1/1, Kursbuch, Hueber-Verlag
- (2) “Menschen” A1/1, Arbeitsbuch, Hueber-Verlag

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	実用ドイツ語Ⅱ Practical German 2			
教員名	ククリンスキ アンドレア			
開講時期	通年	火曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツ語の能力（読む・書く・聞く・話す）をさらに伸ばし、ドイツ語圏諸国での長期滞在に必要なコミュニケーション・スキルの養成を図る。特に留学や研究を目的とする学生向けへの授業である。

■授業計画及び内容

ドイツ語会話Ⅰや実用ドイツ語Ⅰを終えた学生、またはそれと同等のドイツ語能力を身につけた学生を対象とする。実際の練習によって読む・書く・聞く・話す能力を同時に伸ばす。授業の重点は語彙の拡大にあるが、そのために必要な文法練習も含める。特に留学を考える学生にとり、留学先の日常・学生生活に必要な言語能力を養う有益な授業である。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

授業への参加・宿題・出席率・たまに行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。

■教科書／参考書

- (1) “Menschen “ A1/2, Kursbuch, Hueber-Verlag
- (2) “Menschen “ A1/2, Arbeitsbuch, Hueber-Verlag

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	独語作文Ⅰ German Composition I			
教員名	ククリンスキ アンドレア			
開講時期	通年	火曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツ語圏諸国において生活ができるように、書く練習を数多く行い、ドイツ語の作文能力を身につける授業である。留学や研究を目的とする学生のために、基礎的な書く能力を養成する。

■授業計画及び内容

ドイツ語を1年以上学んだ学生を対象とする。簡単なメモや短い挨拶からスタートし、メール、葉書、手紙等の一般的な文通、日記、描写、報告書、詩や物語等々、数多くの具体的な練習を行い、ドイツ語で文章を作る能力を習得する。言語ゲームなども頻繁に行い、学生の創造力を増やしながらドイツ語の能力を伸ばす。特に留学を考える学生にとり、留学先の日常・学生生活に必要な言語能力を身につける有益な授業である。

■受講に当たっての留意事項

和独辞典を授業へ持参する必要がある。電子辞書を薦める（ネット上の辞書可）。

■成績評価方法

授業への参加・宿題・出席率を総合的に評価する。テストは行わないが、毎週宿題を課する。

■教科書／参考書

プリントを配布する。

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	独語原典指導 A Consulting Hours (German) A			
教員名	シュタイン ミヒャエル			
開講時期	通年	月曜 5	単位	0
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり 30 分間の指導が受けられる。

■受講に当たっての留意事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室（音楽学部ホール館 H-203）にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■成績評価方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。この授業を履修登録することは必要でない。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	独語原典指導 B Consulting Hours (German) B			
教員名	ククリンスキ アンドレア			
開講時期	通年	木曜 2	単位	0
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり 30 分間の指導が受けられる。

■受講に当たっての留意事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室（1 号館 1-2-22）にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。指導は H-207 の部屋に行く。

■成績評価方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。（この授業を履修登録する必要はない。）

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	実用フランス語Ⅱ Practical French II			
教員名	ヴィエル エリック			
開講時期	通年	月曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

この授業の到達目標は DELF の B1/B2 を取得できるレベルを養うことにあります。語学試験の準備など、参加する学生の要望、関心、必要性に沿って授業が行われます。

■授業計画及び内容

一年の間に、各自の専門に関連したテーマを選んでフランス語で発表を行っていただきます。この発表は専門的な意味でも実践的な意味でも役に立つでしょう。勉強したことを説明するために、目を引くようなハンドアウト、パソコン、テレビ、ピアノなど、さまざまな手段を自由に用いて発表を行ってください。

DELF の B1/B2 の到達目標は以下の通り。
フランス語を全般に渡って自主的に運用できる。複雑なテキストの要点を理解すると同時に、一般的あるいは専門的な内容の会話に参加し、筋通の通った意見を明確に詳細に述べることができる。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

小テスト、授業への積極的な参加度。

■教科書／参考書

教室で配布する。

■備考（オフィスアワー）

質問は、授業の前後に受け付ける。

授業科目名	仏語原典指導 Consulting Hours (French)			
教員名	ヴィエル エリック			
開講時期	通年	木曜 4	単位	0
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり 30 分の指導が受けられる。

■受講に当たっての留意事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室（音楽学部 4 号館 4-209）にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■成績評価方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。（この授業を履修登録することはできない。）

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	伊語会話 I a Italian Conversation Ia			
教員名	ジェレヴィーニ アレッサンドロ			
開講時期	通年	月曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

日常の伊語会話のスピードに慣れ、自然な言葉の受け答えができるよう練習します。

■授業計画及び内容

教科書を使い、日常的なイタリア語会話の練習をします。初級～中級の基本的な文法を身につけていることと、ある程度の語彙力を備えている必要があります。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

年2回の期末テストの他、出席回数、授業中の勉強意欲などを参考にして採点する。

■教科書／参考書

教科書：

Mazzetti, Falcinelli, Servadio 著、『Qui Italia, 1 Lingua e grammatica (Nuova Edizione)』, Le Monnier 出版社, 2002. (ISBN: 88-00-85356-0)

参考書：

Takeshi Tojo, Rie Inouchi『Qui Italia. Note di grammatica italiana per studenti giapponesi (文法ハンドブック)』, Le Monnier 2008 ;
クラウドディオ・マネッラ『Ecco! イタリア語文法』Progetto Lingua

辞書：

『伊和中辞典・第2版』小学館；
『和伊中辞典・第2版』小学館；
『ポケット・プログレッシブ 伊和・和伊辞典』小学館

■備考（オフィスアワー）

学生と相談した上、決める。

授業科目名	伊語会話 I b Italian Conversation Ib			
教員名	ジェレヴィーニ アレッサンドロ			
開講時期	通年	金曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

日常の伊語会話のなかで、意思伝達のために役立つ基本的な表現や言い回しを覚えます。

■授業計画及び内容

教科書にそって、イタリア語の基本的言い回しを勉強します。伊語初級の単位を取得し、イタリア語文法の知識をひとつおりに身につけている学生を対象とします。教室での勉強に積極的に参加すること。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

年2回の期末テストの他に、出席回数、授業中の勉強意欲などを参考にして採点します。

■教科書／参考書

教科書：

Mazzetti, Falcinelli, Servadio 著、『Qui Italia, 1 Lingua e grammatica (Nuova Edizione)』, Le Monnier 出版社, 2002. (ISBN: 88-00-85356-0)

参考書：

Takeshi Tojo, Rie Inouchi『Qui Italia. Note di grammatica italiana per studenti giapponesi (文法ハンドブック)』, Le Monnier 2008 ;
クラウドディオ・マネッラ『Ecco! イタリア語文法』Progetto Lingua

辞書：

『伊和中辞典・第2版』小学館；
『和伊中辞典・第2版』小学館；
『ポケット・プログレッシブ 伊和・和伊辞典』小学館

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	実用イタリア語Ⅱ Practical Italian II			
教員名	ジェレヴィーニ アレッサンドロ			
開講時期	通年	水曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

挨拶よりさらに踏み込んだ内容の会話を持続させることができるように、練習します。

■授業計画及び内容

イタリア語文法の基礎的知識をすでに身につけ、会話も出来るけれど、さらに磨きをかけたいと思っている学生、あるいは奨学金を獲得し、イタリアの大学で勉強したいと思っている学生などを対象とします。

教科書にそって授業を進めます。

またイタリアの大衆文化に対する理解を深める目的でポップス、映画などを紹介することを考えています。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

年2回の期末テストの他、出席回数、積極的な授業参加などを参考にして採点します。

■教科書／参考書

教科書：

『Nuovo Progetto italiano 1』Edilingua.

参考書：

クラウディオ・マネッラ『Ecco! イタリア語文法』Progetto Lingua.

辞書：

『伊和辞典・第2版』小学館；

『和伊辞典・第2版』小学館；

『ポケット・プログレッシブ 伊和・和伊辞典』小学館

■備考（オフィスアワー）

学生と相談した上、決める。

授業科目名	伊語原典指導 Consulting Hours (Italian)			
教員名	ジェレヴィーニ アレッサンドロ			
開講時期	通年	水曜 2	単位	0
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり30分の指導が受けられる。

■受講に当たっての留意事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室（音楽学部1号館2-22）にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■成績評価方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。（この授業を履修登録することはできない。）

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	英語ディスカッションⅡ English Discussion/Debate II			
教員名	コリンズ キム ソノコ			
開講時期	通年	火曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの目的は、英語でディスカッションやディベートをする技能を向上させることです。

■授業計画及び内容

<授業内容>

レベルチェックテストと自己紹介から授業を始めます。
授業活動には、ディスカッション、ディベートの練習とともにライティングも含まれます。インターネットや新聞で調べることが求められます。
読む、書く、聴く、話す能力を向上させることや、語彙を増やすことも授業の目的のひとつです。
ディスカッションやディベートの論題について、小論を書くことも求められます。
年度末に自己評価、インタビューがあります。

■受講に当たっての留意事項

このクラスのレベルは、「英語上級」(美術学部)・「英語演習」(音楽学部)に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストをします。毎回授業に出席し、欠席する場合には欠席届を提出すること。課題をやり遂げること、積極的な参加姿勢が求められます。

■成績評価方法

出席、授業への参加具合、課題の達成度、自己評価、インタビューにより、採点します。

■教科書／参考書

テキストは使いません。インターネットを元にしたハンドアウトや調査(学生のものを含む)を使います。小論を書く際、A4 ファイルが必要。

■備考(オフィスアワー)

Email:[mail]sonoko31@gamil.com[/mail]

授業科目名	英語プレゼンテーションⅡ English Presentation II			
教員名	コリンズ キム ソノコ			
開講時期	通年	水曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの目的は、英語でプレゼンテーションを行う技能を向上させることです。

■授業計画及び内容

<授業内容>

レベルチェックテストと自己紹介から授業を始めます。
授業活動には、プレゼンテーション技術の練習とともにスピーチ原稿を書くことも含まれます。
読む、書く、聴く、話す力を向上させることや、語彙を増やすことも授業の目的のひとつです。
授業では、視聴覚教材も使用します。
授業期間中、スピーチやプレゼンテーションを書くことも求められます。
年度末に、最終プレゼンテーションと自己評価をしてもらいます。

■受講に当たっての留意事項

このクラスのレベルは、「英語上級」(美術学部)・「英語演習」(音楽学部)に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストをします。毎回授業に出席し、欠席する場合には欠席届を提出すること。課題をやり遂げ、授業活動に十分参加するように。

■成績評価方法

出席、授業活動への参加具合、課題の達成度や、学期末のプレゼンテーションにより、採点します。

■教科書／参考書

教科書は使いません。スピーチ原稿を書く際に、A4 ファイルを持ってくること。

■備考(オフィスアワー)

Email:[mail]sonoko31@gmail.com[/mail]